

氏名	河原道子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5085 号
学位授与の日付	平成 27 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Factors Influencing Breast Density in Japanese Women Aged 40-49 in Breast Cancer Screening Mammography (40歳代の日本人女性の検診マンモグラフィにおいて乳腺濃度に影響を与える因子)
--------	---

論文審査委員	教授 三好新一郎 教授 平松祐司 教授 土井原博義
--------	---------------------------

学位論文内容の要旨

我が国の乳癌マンモグラフィ検診において、40歳代では乳腺濃度が高い場合が比較的多く、病変が描出しにくいことが問題となっている。乳腺濃度に関わる因子について retrospective に検討した。対象は当院にて検診マンモグラフィを受けた 40 歳代女性 200 症例。乳腺濃度高濃度群と低濃度群に分け、年齢、身長、体重、BMI (body mass index)、腹囲、血中中性脂肪、血中総コレステロール、血中 HDL コレステロール、血中 LDL コレステロール、出産の有無の各項目について統計学的に検討した。多変量解析の結果、40 歳代女性のマンモグラフィ検診において、高濃度乳腺に関係する因子は、小さな腹囲、HDL コレステロール高値、出産歴なしであった。腹囲<76cm かつ HDL-C=53mg/dl で出産歴がない女性は、乳腺濃度が高くマンモグラフィにて病変が描出しにくい可能性が高い。

論文審査結果の要旨

我が国の乳癌マンモグラフィ検診において、乳癌罹患率が多いとされる 40 歳代では乳腺濃度が高い場合が多く、病変が描出しにくいことが問題となっている。そこで、本研究者は検診マンモグラフィを受けた 40 歳代女性 200 例を対象として乳腺濃度高濃度群と低濃度群に分け、乳腺濃度に関わる 10 因子について後方視的に検討した。多変量解析の結果、小さな腹囲 (<76cm)、血中 HDL コレステロール高値($\geq 53\text{mg/dl}$)、出産歴なしが有意な高濃度関係因子であった。この結果は 40 歳代の乳癌検診において、乳腺超音波検査などマンモグラフィ以外のモダリティを選択する一助になる可能性があり、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。